

甲虫ニュース

COLEOPTERISTS' NEWS

No. 71 January 1986



トガリバチビシテムシについて*

西川 正明

トガリバチビシテムシ *Catops spinipennis* NAKANE は、1964年に長野県常念岳の標高1,300mの地点に設置されたベート・トラップにより採集された2頭の内の1頭の雌個体 (probably ♀ とある) で記載されたチビシテムシである。しかし、この個体 (holotype) は破損したものであることが明記されており、原記載は胸部、左翅鞘、中肢等に基づいて記述され、属名にも疑問符付の扱いがなされていた。一方、SZYMCAKOWSKI 博士はハネカクシの研究家、柴田泰利氏が送付したチビシテムシの中から本種に該当する神奈川県丹沢大倉産 (報文中では Kagawa と誤って記されている) の雌個体を見出し、1976年に再記載を発表した。同時にその際、本種が *Catops alpinus* グループの一員であることが示唆されていた。とはいえ本種の雄については現在まで知られていないと思われる。

筆者は、柴田泰利氏から多数のチビシテムシ科甲虫を恵与されているが、SZYMCAKOWSKI (1976) が報告したものと同一の産地で採集された本種も恵与されている。しかも幸いなことに、その中には本種の雄と認められるものも含まれていたため、和文の記載を欠くことでもあり、ここに紹介しておこうと思う。本文に先だち、貴重な標本を検査する機会を与えて

下さった柴田泰利氏に厚く御礼申し上げる。

Catops spinipennis NAKANE トガリバチビシテムシ
NAKANE, 1964, Sci. Rep. Kyoto Pref. Univ.

(Nat. Sci., Liv. Sci. & Welf. Sci.), A, (15): 25, (♀) (*Catops*?). — SZYMCAKOWSKI, 1976, Acta zool. cracov., 21: 67, figs. 71-75, (♀) (*Catops*). — NISHIKAWA, 1983, Checklist Coleopt. Japan, (23): 6.

記載: ♂。体は細長いだ円形。頭部と前胸背板中央部は暗褐色で光沢があり、触角は赤褐色で最初の2節と末節の先端部半分はいくぶん明るい。翅鞘と前胸背板側縁部、口器、脚部は光沢のある赤褐色で、体下は暗赤褐色。背面は比較的長い金色臥毛におおわれる。

頭部はかるく隆まり、明瞭で大きな点刻が放射状に並び、複眼は強く張り出す。触角 (図2) は太短く、第6節から第9節までが僅かに非対称。第3節は長く、幅の1.8倍、第4節は前節より細く、幅の1.3倍の長さがあり、第5節は幅より少し長く、第6節は横長。

第7節は大きく、長幅はほぼ等しく、第8節は横位で前後の節より細く、幅は長さの約2倍、第9節の1/2より少し長い。第9節は多少横長で、第10節より幅広だが少し短く、第10節は長幅等しい。第11

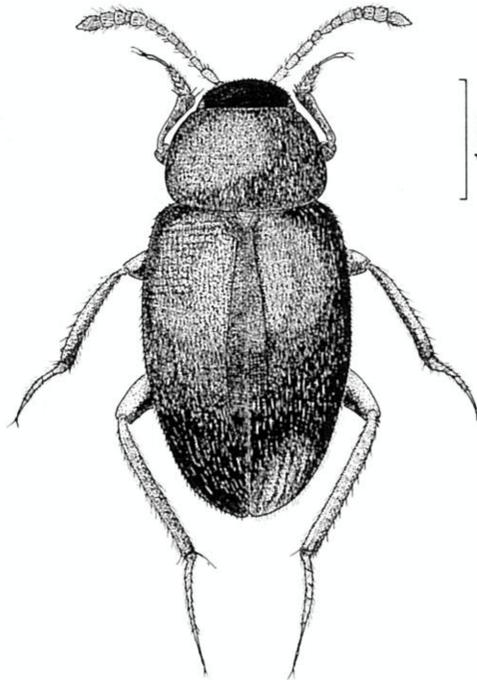


図1 トガリバチビシテムシ
Catops spinipennis NAKANE ♂

* Masaaki NISHIKAWA, Notes on *Catops spinipennis* NAKANE (Catopidae)

節は幅の 1.7 倍の長さで、中央部で多少太まり、頂部は突出し、その先端は鈍く丸まる。

前胸背板は小さく、横位。側縁は中央部で最も幅広く、前方に狭められる。前縁はかるく湾入し、前角は丸く、後角は鈍い。前胸幅／頭幅は 1.3-1.6、前胸幅／前胸長は 1.5-1.6、点刻は大きく、やすり状でいく分横ひだ状となるが不明瞭。

翅鞘は幅広く、中央のやや前方で最も幅広い。翅鞘幅／前胸幅は 1.4-1.5、翅鞘長／前胸長は 2.8-3.0、翅鞘長／翅鞘幅は 1.2-1.5、中央部は多少平圧され、やすり状に点刻され、横ひだ状となり、後半部では条溝の痕跡が明らかである。翅端は尖らない。下翅はある。小楯板は小さく三角形。

前腿節の内縁先端部は、板状に小さく突出し、中央部には小突起を欠く。前脛節は内縁中央部から太まるが、先端に向ってあまり太まらない。前跗節は基方 3 節が弱く拡がり、爪節は比較的長い、爪は単純。中脛節には剛毛が列生し、跗節第 1 節はかるく太まる。後脛節は中脛節と同様で、跗節は単純。

体下は明らかに点刻され、金色臥毛を備える。可視第 6 腹節腹板は基部中央に刻み目があり、生殖節は図 4 に示した通り。尾節板は単純。

交尾器 (図 7) の中片は非常に細長く、先端に向って弱く拡がり、側面から見て先方約 1/3 で強く湾曲する。頂部は強く突出し、その先端は尖り、腹面に反り返り小突起を形成する。背面中央部には細く短い縦溝があり、側縁は縁取られる。側片は細長く、中片の約 4/5 に達し、先端にはそれぞれ 1 本の細毛を備える。

体長：3.2-3.5 mm (頭部前縁から翅端まで)；体幅：1.7-1.8 mm。

♀。触角の第 6 節から第 9 節は僅かに非対称。第 5 節は長幅等しく、第 6 節は多少横長。第 9 節と第 10 節は略同形。前胸背幅／頭幅は 1.6-1.7、前胸幅／前胸長は 1.5-1.6。翅鞘は中央のやや前方で最も幅広いが、後半は翅端に向って急速に狭められる。翅端 (図 5) は尖り、多少反り返るが、反りが弱い個体もある。翅鞘幅／前胸幅は 1.4、翅鞘長／前胸長は 2.9-3.1、翅鞘長／翅鞘幅は 1.3。前腿節は雄と同様だが、前脛節は単純。跗節も拡がらない。可視第 5 腹節腹板 (図 6) は中央に縦溝があり、先方が広くなり深い。また前尾節板も中央に縦溝があり、基方が広く深くなり、凹みは前節に及ぶ。

体長：3.3 mm (頭部前縁より翅端まで)；体幅：

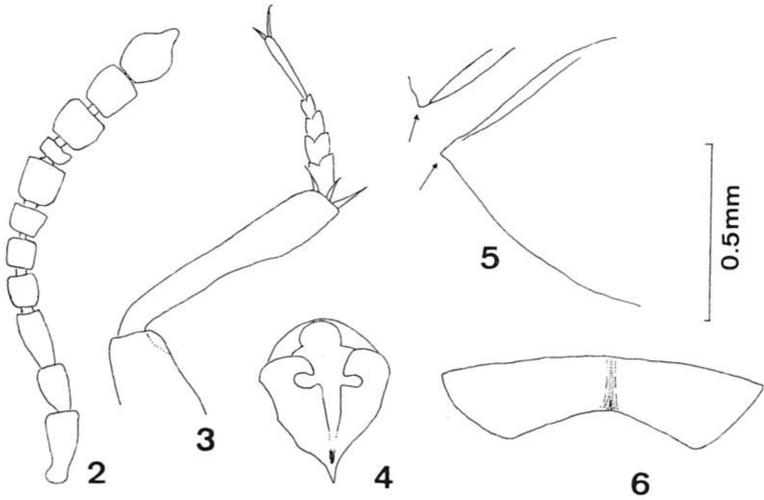


図 2-6 トガリバチビシテムシ *Catops spinipennis* NAKANE: 2, ♂ 触角; 3, ♂ 前肢; 4, ♂ 生殖節; 5, ♀ 翅端; 6, ♀ 可視第 5 腹節腹板。

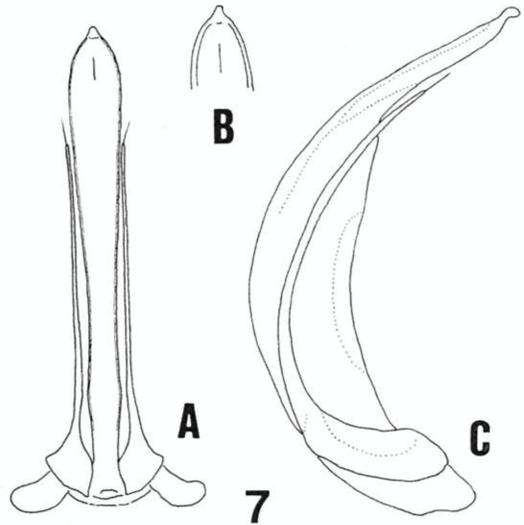


図 7 トガリバチビシテムシ *Catops spinipennis* NAKANE, ♂ 交尾器: A, 背面; B, 頂部; C, 側面。

1.6-1.8 mm。

分布：日本 (本州)。

検視標本：1 ♀, 神奈川県丹沢大倉付近, 20. iv. 1969; 1 ♂ ♀, 同上, 2. v. 1969; 1 ♂, 丹沢菩提, 3. v. 1973, 全て柴田泰利採集。

備考：JEANNEL (1936) はモノグラフの中で、*Catops* 属をグルーピングしたが、その後 SZYMCAKOWSKI (1964) はそれを若干改変している。それによれば *Catops alpinus* グループは、1) 翅鞘の点刻は強く (窪まないが)、粒起や白濁光沢がない。2) 触角球

桿部は太まり、第7節と第9節は非対称。3) 前腿節内縁中央部には小突起を欠く。4) 雌の第5腹節腹板は多少とも中央が窪み、後縁は湾入する。5) 交尾器の中片は細く、弧状で、しばしば槍形、背面は隆まり、中央に小さな溝がある、などの点で他グループと区別されるので、本種は *alpinus* グループの種と考えることができる。尚、同じグループに属すると思われる邦産種には、ナカネミヤマチビデムシ *Catops japonensis* NAKANE, ミヤマチビデムシ *C. sparce-punctatus* JEANNEL, セスジチビデムシ *C. torigaii* NAKANE があるが、筆者に未見の種もあるので、検索表は現状では残念ながら作ることができない。

参 考 文 献

- JEANNEL, R., 1936. Monographie des Catopidae. *Mém. Mus. natn. Hist. nat.* (n. s.), Paris, 1: 1-433.
KAMIMURA, K., T. NAKANE & N. KOYAMA, 1964. Seasonal and altitudinal distribution of beetles

in Mt. Jōnen, the Japan Alps, with descriptions of new species, I (Studies on the insects of high mountains, III). *Sci. Rep. Kyoto Pref. Univ.* (Nat. Sci., Liv. Sci. & Welf. Sci.), A, (15): 17-38.

NISHIKAWA, M., 1983. Catopidae. *Check-list Coleopt. Japan*, (23): 1-6.

SZYMCZAKOWSKI, W., 1964. Analyse systématique et zoogéographique des Catopidae (Coleoptera) de la région orientale. *Acta zool. cracov.*, 9: 1-289, figs. 1-312.

——— 1971. Familie: Catopidae. In FREUDE, H., K. W. HARDE & G. A. LOHSE (eds.), *Die Käfer Mitteleuropas*, 3: 204-237, Goecke & Evers, Krefeld.

——— 1976. Remarques sur la taxonomie et la distribution des Catopidae (Coleoptera) paléarctiques. *Acta zool. cracov.*, 21: 45-72, figs. 1-75. (神奈川県座間市)

○千葉県未記録のマグソコガネ2種

最近山崎秀雄氏が千葉県のコガネムシをまとめられ印刷の恵とに預り興味深く拝見した。その中に採録されていないマグソコガネ2種を昔採集したことがあるので書留めておく。

1. ダルママグソコガネ *Mozartius testaceus* NOMURA et NAKANE, 1951

市川市国府台下の江戸川で干潮時に露われる川原で1匹採集した。多分1946年のことだったと思う。月日は覚えていないが当時の日記を見ると5月17日と6月12日に同所へ採集に行っている。この標本は黒沢良彦博士を経て野村 鎮氏に渡り、北隆館の原色昆虫大図鑑に図示されたものである。中根猛彦教授から照会があって、これも大部以前のことであるが採集した場所を再訪したことがある。しかし、昔沢山いた色々なゴミムシ類もサッパリ見当らず探しても無駄という印象であった。この種は長岡智郎氏が東京阿佐ヶ谷で、吉田 晶氏が神奈川県片瀬で採集された標本に基き新属新種で書かれたものであるが、タイプ標本は焼失した由で、少なくとも北隆館の図鑑刊行当時は私のこの千葉県での採集品しかなかったわけである。最近の保育社の図鑑で益本仁雄氏が *M. jugosus* の地方変異であろうと云っているが、問題解決の為には東京附近で更により標本を得る必要がある。

2. トゲマグソコガネ *Caelius denticollis* LEWIS

1頭、清澄山, 1. iv. 1954, 浅間山の森林の中の湧泉の水溜りに落ちてもがいていたのを拾った。標本は田中所蔵。

文 献

山崎秀雄, 1985, 千葉県のコガネムシ主科。千葉生物誌, 35(1): 1-19.

NOMURA, S. & NAKANE, T., 1951, On some new and remarkable species of Aphodiinae from Japan and Formosa. *Kontyû* 19: 1-13.

(神奈川県相模原市, 田中和夫)

○「佐渡島のハネカクシ」追加(ハネカクシ科分布資料 12)

先に筆者等は佐渡島より63種のハネカクシを記録したが(1981, 越佐昆虫同好会々報, (52): 23-32), その際阪口浩平・澤田高平による記録(1955, ハネカクシ科, 原色日本昆虫図鑑(甲虫編): 121, 保育社)が脱落していた。そこでその1種を追加すると同時に、その後恵与を受けた1未記録種を併せ報告する。

1. *Liusus hilleri* (WEISE) カタモンハネカクシ
記録: 阪口・澤田(1955, 新潟県佐渡島) *Liusus* 属に含まれる種は海浜性で、現在まで日本から2種が知られている。それらの内, *L. humeralis* (MATSUMURA) キタカタモンハネカクシは北海道に, *L. hilleri* (WEISE) カタモンハネカクシは関東以西の各地に生息していることが知られている(WATANABE, 1983, *Kontyû*, Tokyo, 51: 214-220)。しかしながら、これらの種が東北地方ではどの様に分布しているかは明らかでなく、佐渡島産の種が上記2種のどちらに該当するかは、今後の確認が必要である。

2. *Velleius dilatatus* (FAB.) ナミクシヒゲハネカクシ

採集記録: 志津, 佐渡島, 10. ix. 1982, 後閑暢夫採集。

本種はヨーロッパでは古くから *Vespa crabro* LINNÉ と共生していることが知られ、日本からも SHARP (1889, *Ann. Mag. nat. Hist.*, (6)3: 29) は本種がボクトウガの幼虫と関連して生息していると指摘し、また高見沢今朝雄はツヤクロズメバチおよびシダクロズメバチの巣に寄生していることを報告している(1981, *New Ent.*, (30): 55-61, 62-63)。しかし本種は通常樹液から採集されることが多い。

末筆ながら貴重な標本のご恵与にあずかった後閑暢夫博士に御礼申しあげる。

(東京農大, 渡辺泰明; 新潟県黒川村, 馬場金太郎)

○群馬県藤岡市のナガゴミムシ

藤岡市を始めとする多野山地は関東山地の北端にあたり、奥秩父と群馬県との関連を考える上で興味深い地域である。筆者らは数年前より主にトラップによりこれらの地域を調査した結果、藤岡市内において下記の種を記録することができたのでここに報告する。

1. ミヤマクロナガゴミムシ *Pterostichus (Eosteropus) karasawai* TANAKA
赤久縄山(標高1,300m): 1♂2♀♀, 4~7. viii. 1982, 内山裕司採集; 1♀, 7~14. vii. 1985, 須田 亨採集。
2. ヤツオオナガゴミムシ *P. mucronatus* STRANEO
赤久縄山(標高1,300m): 1♂1♀, 4~7. viii. 1982, 内山裕司採集。
3. ウエノオオナガゴミムシ *P. (Paralianoe) uenoi* STRANEO
上日野(標高340m): 1♀, 10~17. x. 1982; 棚山(標高450m): 1♀, 30. viii~8. ix. 1984, 1♂, 12. v. 1985, 須田 亨採集。
4. ミズギワナガゴミムシ *P. (Nialoe) asymmetricus* BATES
赤久縄山(標高1,300m): 59♂♂109♀♀, 4~7. viii. 1982, 内山裕司採集; 同(標高1,100~1,300m): 7♂♂2♀♀, 7. vii. 1985; 4♂♂12♀♀, 7~14. vii, 1985; 奥ノ反(標高550m): 1♂5♀♀. 13~17. viii. 1985; 2♀♀, 17~24. viii, 1985, 須田 亨採集。
日光, 利根地方のものとは異なり, 側頭部のふくらみは弱くお腹端の突起は細長い。からだはやや長めで全体的には奥秩父中津峡のものによく似ている。赤久縄山(標高1,100~1,300m地点)では個体数が極めて多くまた全体黒色であるが, 奥ノ反では肢に赤みのあるものが採れている。藤岡市に限らないが赤肢型は局地的に現われるようである。
5. ミヤマナガゴミムシ *P. (N.) rhanis kantous* TANAKA
赤久縄山(標高1,300m): 12♀♀, 4~7. viii. 1982, 内山裕司採集; 3♂♂3♀♀. 7. vii. 1985; 3♂♂2♀♀, 7~14. vii. 1985; 4♂♂4♀♀, 10. x. 1985, 須田 亨採集。
群馬県北部の基亜種とは前胸背板基部の凹みが明らかである点や上翅の形状が異なる。
6. オクタマナガゴミムシ *P. (N.) okutamae* TANAKA
赤久縄山(標高1,300m): 1♂2♀♀, 4~7. viii. 1982; 内山裕司採集; 1♂1♀, 7. vii. 1985; 4♀♀, 7~14. vii. 1985; 奥ノ反(標高550m): 2♀♀, 24. viii, 1985, 須田 亨採集。
筆者らの知る限りでは, 下仁田町(標高650m): 1♂, 1. viii. 1982(内山裕司採集)に次いで北の記録である。ヤツオオナガゴミムシと共に群馬県に産した意義は大きい。
7. カタンナナガゴミムシ *P. (N.) katashinensis* HABU

赤久縄山(標高1,300m): 5♂♂10♀♀, 4~7. viii. 1982, 内山裕司採集; 1♂1♀, 7~14. vii. 1985, 須田 亨採集。

(群馬県伊勢崎市, 須田 亨; 埼玉県春日部市, 内山裕司)

○岩手県宮古市の海岸で採集されたミズギワゴミムシ(ミズギワゴミムシ分布資料8)

筆者の1人, 三浦が岩手県宮古市で採集した結果をここに報告する。

リアス式海岸特有の岩場が続く海岸線の中で, 宮古湾に流れ込む津軽石川の河口には, せまいながら砂浜が発達して漂流物や海草などが多く打ち上げられ, それらの下から採集された。また同所では, ヒョウタンゴミムシ, ホネゴミムシダマシ, ハマベゾウムシなどの海浜性甲虫も得られている。

岩手県宮古市金浜(かねはま), 3. iv. 1983, 三浦秀明採集。

1. キバナガミズギワゴミムシ *Armatocillenus yokohamae* (BATES), 1頭。
2. オオズミズギワゴミムシ *Bembidion quadrimpressum* (MOTSCHUSKY), 3頭。
3. ヨツボンミズギワゴミムシ *B. morawitzii* CSIKI, 1頭。
4. ウスモンミズギワゴミムシ *B. cnemidotum* BATES, 2頭。
5. キアンルミズギワゴミムシ *B. trajectum* NETOLITZKY, 5頭。
6. ヒラタアオミズギワゴミムシ *B. pseudolucillum* NETOLITZKY, 3頭。
7. オオアオミズギワゴミムシ *B. lissonotum* BATES, 1頭。
8. ヒョウゴミズギワゴミムシ *B. hiogoense* BATES, 3頭。
9. カワグチミズギワゴミムシ *B. aureofuscum* BATES, 1頭。
10. ハコネミズギワゴミムシ *B. lucillum* BATES, 9頭。

なおカワグチミズギワゴミムシは, 西日本では河口付近に多くみられるが, 東北地方からは, はじめての記録と思われる。

(東京都港区, 森田誠司; 岩手県宮古市, 三浦秀明)

○ヨコミゾチビゴミムシダマシを大菩薩で採集

ヨコミゾチビゴミムシダマシ *Usechus chujoi* KULZER の山梨県からの採集例は最近平野*により報告されたばかりであるが, 本種は各地の分布リストなどを見ても殆んど報告されることのない珍しい種類のようにもあり, また, 先日の本会の採集会における採集品ということもあり分布資料として記録しておきたい。

1頭, 山梨県大菩薩, 23. vi. 1985.

沼の窪付近のあまり太くない朽木をビーティングして採集した。

* 平野幸彦, 1985 月刊むし, (173): 35

(神奈川県川崎市, 沢田和宏)

ネクイハムシ類 1985 年の採集、観察記録

小宮義璋*・大桃定洋**・高桑正敏***

1. イネネクイハムシ *Donacia* (*Cyphogaster*) *provostii* FAIRMAIRE, 1885
長野県大町市中綱湖 (820 m): 1♂, 22. vii, 高桑。
コウホネの浮葉より得た。体長 5.6 mm, 小型で上翅端内角は丸まるなど, *D. (C.) yuasai* NAKANE, 1963 ヒメネクイハムシに似た特徴を持つ。
2. カワホネネクイハムシ *D. (Donacia) ozensis* NAKANE, 1954
長野県大町市中綱湖 (820 m alt): 8♂♂20♀♀, 22. vii, 高桑; 3♂♂6♀♀, 31. vii, 高桑。
コウホネの浮葉より得た。分布の西限記録である。
3. クロガネネクイハムシ *D. (D.) flemola* GOECKE, 1944
福島県東白河郡塙町那倉鳩ノ宮 (640 m): 17♂♂9♀♀, 9. vi, 大桃; 25♂♂7♀♀, 9. vi, 小宮; 2♂♂1♀, 15. vi, 小宮; 福島県東白河郡塙町長谷地 (660 m); 38♂♂21♀♀, 9. vi, 大桃; 35♂♂25♀♀, 9. vi, 小宮; 福島県東白河郡鮫川村内ヶ竜 (450 m); 2♂♂1♀, 15. vi, 小宮; 茨城県北茨城市花園山亀谷地 (780 m); 2♂♂4♀♀, 9. vi, 大桃; 36♂♂29♀♀, 9. vi, 小宮。
成虫の食草: アゼスゲ, オタルスゲ (亀谷地での観察による)。
クロガネネクイハムシは, 広い湿地の中でも特定の数株にのみ多く集まっており, 特別な集合フェロモンでもあるのではないかとと思われる。この傾向は他の種類でも多かれ少かれ見られ, スゲハムシやシラハタネクイハムシ等でも顕著である。6月9日は時々雨の降る気温のあまり高くない日であったが, 亀谷地, 長谷地では本種の飛ぶのが観察できた。
4. キンイロネクイハムシ *D. (D.) japana* CHÛJÔ et GOECKE, 1956
福島県東白河郡塙町那倉鳩ノ宮 (640 m): 1♀, 9. vi, 小宮。
スゲハムシ及びシラハタネクイハムシに混じて, ウマスゲの花より得られた。発生期はもう少し早いのではないと思われる。
5. ヒラタネクイハムシ *D. (D.) hiurai* KIMOTO, 1983
福島県東白河郡塙町那倉鳩ノ宮 (640 m): 6♀♀, 9. vi, 大桃, 1♂1♀, 9. vi, 小宮, 1♂1♀, 15. vi, 小宮; 福島県東白河郡塙町長谷地 (660 m); 1♀, 9. vi, 大桃; 福島県東白河郡鮫川村内ヶ竜 (450 m); 1♀, 15. vi, 小宮; 茨城県北茨城市花園山亀谷地 (780 m); 1♂2♀♀, 9. vi, 小宮。
分布はかなり広いが, いずれの産地でもあまり多くは得られていない。おそらくもっと早い時期に発生するためと思われる。
6. ホソネクイハムシ *D. (D.) vulgaris* ZSCHACH, 1788

秋田県鹿角市八幡平金衛門池 (750 m): 17♂♂16♀♀, 16. vi, 高桑。

ガマ属の1種から得た。葉身を食するもののほか, 水面近くの葉と葉の間, 特に葉鞘部分に潜んでいる個体が多かった。

7. *D. (D.) bicoloricornis* CHEN, 1941

茨城県石岡市高浜, 1♂, 3. v, 根本圭介。

アトラスでは *D. (D.) simplex* FABRICIUS, 1775? トミナガネクイハムシ (仮称) となっている種であるが, ヨーロッパ産の *D. simplex* とは区別でき, 上記種の記載とは比較的よく一致する。本種はアトラスに記録されている青森県以外に, これまで茨城県と千葉県の平野部でかなり採集されており, 参考のため以下にこれまでの記録を列記しておく。いずれも灯火に飛来したもので, 7月~9月に記録が集中している。ネクイハムシ類で灯火に飛来することが知られていたのは, イネネクイハムシのみであり, 本種の習性は興味あるものと思われる。採集者の根本氏によると, 霞ヶ浦の土手のヨモギから得られたとのことであるが, これは本来の食草ではないと考えられ, また5月初旬から既に発生していることも判明した。

千葉県長生郡岬町亀ヶ城池: 1♂, 12. ix. 1981, 笠原須磨生; 茨城県北相馬郡守谷町内守谷: 4♂♂1♀, 4. vii. 1984, 秋山黄洋; 1♂, vii. 1984, 秋山, 2♂♂, 18. vii. 1984, 秋山, 11♂♂2♀♀, 15. viii. 1984, 秋山; 茨城県筑波郡桜村筑波大学構内, 1♀, 17. viii. 1984, 芳賀 馨。

尚本種は台湾にも分布しているようで, 次のような標本が得られている (今坂正一氏保存)。

台湾南投県仁愛郷南山溪, 6~10. vi. 1974, 越智輝雄。これも灯火により得られたとのことである。

8. ツヤネクイハムシ *D. (D.) nitidior* (NAKANE, 1963)

福島県東白河郡塙町那倉鳩ノ宮 (640 m): 1♂3♀♀, 9. vi, 大桃, 1♂2♀♀, 9. vi, 小宮; 福島県東白河郡塙町長谷地 (660 m): 1♂, 9. vi, 小宮; 茨城県北茨城市花園山亀谷地 (780 m): 2♂♂2♀♀, 9. vi, 大桃; 6♂♂1♀, 9. vi, 小宮; 茨城県真壁郡真壁町筑波山真壁口: 1♂1♀, 1. vi, 大桃。

ツヤネクイハムシには従来金銅色系のものが多く, ほかに青色系の型が知られていたが, 赤色系の型も採集された。

9. オオネクイハムシ *Plateumaris* (*Plateumaris*) *constricticollis* (JACOBV, 1885)

岩手県岩手郡松尾村八幡平御在所沼 (890 m): 60♂♂13♀♀, 16. vi, 高桑; 福島県東白河郡塙町那倉鳩ノ宮 (640 m): 3♂♂5♀♀, 9. vi, 大桃; 1♂, 9. vi, 小宮; 福島県東白河郡矢祭町川ノ岐 (445 m): 1♀, 15. vi, 小宮; 茨城県北茨城市花園山亀谷地 (780 m): 15♂♂5♀♀, 9. vi, 大桃;

12♂♂3♀♀, 9. vi, 小宮; 茨城県真壁郡真壁町筑波山真壁口: 3♂♂, 1. vi, 大桃。

八幡平における観察では、本種はミズバショウの葉上や葉と葉の間、特に葉柄部分にすることが多く、ほかにギボウシ属の1種やミツガシワの葉上にも見られた。特にミツガシワ群落にいた多くは体に泥を附着させており、地上へ脱出後間もないと考えられる。なお本種は、西日本産の2亜種を除いて後食例が知られていないが、ミズバショウに潜んでいた本種が後食したと思われる食跡が確認された。

10. シラハタネクイハムシ *P. (Euplateumaris) shirahatai* KIMOTO, 1971

秋田県鹿角市八幡平金衛門池 (750 m): 5♂♂1♀, 16. vi, 高桑; 秋田県仙南郡田沢湖町乳頭温泉空吹湿原 (900 m): 5♂♂4♀♀, 13. vi, 高桑; 12♂♂6♀♀, 15. vi, 高桑; 秋田県仙南郡田沢湖町先達川沿いの湿地 (580 m): 4♂♂2♀♀, 14. vi, 高桑; 福島県東白河郡鮫川村青生野反谷地 (700 m): 1♂, 15. vi, 小宮; 福島県東白河郡鮫川村十日塚朝日山 (700 m): 19♂♂22♀♀, 9. vi, 大桃; 22♂♂24♀♀, 9. vi, 小宮; 福島県東白河郡塙町那倉鳩宮 (640 m): 19♂♂12♀♀, 9. vi, 大桃; 20♂♂20♀♀, 9. vi, 小宮; 1♂2♀♀, 15. vi, 小宮; 福島県東白河郡塙町長谷地 (660 m): 1♀, 9. vi, 大桃; 福島県東白河郡塙町殿畑林道 (710 m): 1♂4♀♀, 15. vi, 小宮; 茨城県北茨城市小川 (580 m): 1♂, 9. vi, 小宮; 茨城県北茨城市花園山亀谷地 (780 m): 1♀, 9. vi, 大桃。

シラハタネクイムシにはスゲハムシに見られるように色彩変異が多いが、大きく金銅色型、青色型及び赤色型に分けられる。このうち青色型(青紫色、緑青色、紫黒色等を含む。)のものは、例外なく雄個体であった。赤色系のものにも雄個体が多かったが、雌で赤色型を呈する個体も稀ではない。一方金銅色型では雌雄共にあるが、どちらかという雌個体の方が多い。同様の傾向はスゲハムシについても認められ、ツヤネクイでも青色型は雄個体であった。以上のことから青色系の遺伝子は伴性遺伝することが考えられ、今後更に多くの観察が望まれる。

従来東北地方での分布は非常に局地的と考えられていたが、必ずしもそうではなく、かなり広く分布するようである。また一部地域では、特に阿武隈南部地域では、スゲハムシとの区別が必ずしも容易ではない個体があり注意を要する。

上記の産地では殆んどスゲハムシと同所的に産し、特に住み分けている様子はみられなかった。空吹湿原ではコバイケイソウに多く、一部はミズバショウの葉上からも得られた。先達川沿いの湿地ではスゲ属の1種の葉と葉の間にみられ、阿武隈ではウマシゲの花に次種と共に集っていた。本種もスゲハムシも、クロガネクイハムシのように、ある特定の株に集中する傾向はみられたが、その程度はクロガネクイハムシより弱いように感じられた。

11. スゲハムシ *P. (E.) sericea* (LINNÉ, 1768)

秋田県鹿角市八幡平金衛門池 (750 m): 9♂♂5♀♀, 16. vi, 高桑; 秋田県仙南郡田沢湖町乳頭温泉空吹湿原 (900 m): 24♂♂12♀♀, 13. vi, 高桑; 38♂♂23♀♀, 15. vi, 高桑; 秋田県仙北郡田沢湖町乳頭温泉孫六湯附近の小湿地 (820 m): 3♂♂2♀♀, 15. vi, 高桑; 秋田県仙北郡田沢湖町先達川沿いの湿地 (580 m): 72♂♂55♀♀, 14. vi, 高桑; 岩手県二戸郡安代町八幡平八幡沼: 5♀♀, 6. viii, 小宮; 岩手県岩手郡松尾村黒谷地湿原: 1♂, 5. viii, 小宮; 岩手県岩手郡松尾町八幡平御在所沼 (890 m): 3♂♂3♀♀, 16. vi, 高桑; 福島県南会津郡松枝村国道沿いの湿地: 2♂♂, 23. vi, 大桃; 福島県東白河郡鮫川村十日塚朝日山 (700 m): 2♂♂4♀♀, 9. iv, 大桃; 3♂♂5♀♀, 9. vi, 小宮; 福島県東白河郡塙町那倉鳩ノ宮 (640 m): 20♂♂12♀♀, 9. vi, 大桃; 31♂♂31♀♀, 9. vi, 小宮; 10♂♂9♀♀, 15. vi, 小宮; 福島県東白河郡塙町長谷地 (660 m): 20♂♂15♀♀, 9. vi, 大桃; 茨城県北茨城市花園山亀谷地 (780 m): 6♂♂12♀♀, 9. vi, 大桃; 11♂♂7♀♀, 9. vi, 小宮; 長野県諏訪郡富士見町入笠山大阿原湿原: 15♂♂14♀♀, 7. vii, 大桃; 長野県立科町スズラン峠北麓の小池 (1,700 m): 3♂♂4♀♀, 21. vii, 高桑。

カヤツリグサ科各種の葉身や花に多く、ミズバショウ、コバイケイソウ、ミツガシワ、ギボウシ属の1種など広範な植物にみられた。先達川沿いの湿地ではサワフタギの1本の低木が満開で、数10頭の本種が集っていたほか、湿地の際から20~30m程離れた所のサワフタギの花からも得られている。

この記録をまとめるにあたり、秋山黄洋、今坂正一、笠原須磨生、根本圭介、芳賀 馨の諸氏には標本につき、また神奈川県立博物館の大場達之博士にはスゲ類の同定につきお世話になった。記して謝意を表する。

(* 東京大学, ** 筑波大学, *** 神奈川県立博物館)

○マダククロホシタマムシの新加害植物

マダククロホシタマムシ *Ovalisia vivata* (LEWIS, 1892) は、黒沢*によれば、スギとヒノキの樹皮下を加害すると云う。しかし、筆者はネズ *Juniperus rigida* SIEB. et ZUCC. から羽化した標本を所蔵している。スギやヒノキとは同じヒノキ科に属する植物ではあるが、まだ記録がないようであるので、ここに記録しておく。

1♂1♀, 山梨県南都留郡鳴沢村富士スバルライン付近, 15. ix. 1984 加害植物採集, 17. vi. 1985, 東京にて羽化, 筒井 謙採集。

筒井氏によれば、直径3~8cmの幹より羽化したと云う。赤く枯れた葉のついた1984年の春に伐採されたと思われる倒木より切断した材であると聞いた。標本を恵与された筒井 謙氏に深謝する。

* 黒沢良彦, 1970. 日本産タマムシ科解説, 甲虫ニュース, (8): 3. (横浜市中央区, 服部宇春)

記録の要ある台湾のナカボソタマムシ属 2 種について

秋山黄洋

東京大学医学部の小宮義璋博士より御恵受を受けた多数の台湾産タマムシの中に、特に興味あるナカボソタマムシ属に含まれる 2 種類があったので報告する。

報告に当り、小宮博士並びに、石垣島産台湾ナカボソタマムシの♂を御恵与下さった北海道大学農学部昆虫学教室の西川直己氏に深謝する。

1. スミナガシナカボソタマムシ (新称) *Coraeus aesopus* KERREMANS, 1912

1 ♀, 高雄県六龜郷大原山, 24. v. 1984, 小宮義璋採集。

体長 14.3 mm, 体幅 5.2 mm. この属では大型。全体光沢ある墨色であるが、前胸背中央部は深青色、翅鞘は深緑色、前胸背側縁部、翅鞘肩部、外縁部及び肢は赤紫色、腹部は銅色をそれぞれ帯びる。頭部は粗く点刻され中央は深く陥凹し、その両側は瘤状に隆起し、頭楯及び顔面は銀灰色の短毛を密布する。

前胸背は幅で幅は長さの 1.72 倍、中央前で強く隆起し、その両側方後縁角は深く陥凹する。前縁は弧状、後縁は強く波曲し、外縁は細かい段刻からなり強く弧状を呈し、前縁に向って下向する。中央には縦に I 字形の、その両側には Y 字形からなる銀灰色の短毛を有する。小楯板は横長で幅は長さの 2.5 倍、密に点刻で覆われる。

翅鞘は縦長で横幅の約 2.27 倍、点刻は細かく密。肩部は皺状印刻からなり内方は広く浅く陥凹し、翅鞘基部から会合線付近は比較的平坦であるが、その

両側は軽く盛り上り、外縁へ向って急峻に落ちこむので、肉眼で見るとこの段差で縦の筋状に見える。翅底は不定形毛紋、中央及び後方に波状の横帯、その下にハノ字形の銀灰色短毛を有する。外縁は細かく段刻され先方 1/3 付近から細かい鋸歯状、翅端は半月形にえぐられ、其の外側は鋭く長い刺状突起を内側はそれぞれ 4 歯を有する。

前胸腹板突起の点刻は粗く V 字形、短かい銀灰色短毛を散布する。腹部腹板は皺状点刻が密で、一面銀灰色の短毛を散布するが、第 4~7 節の外方は密となり、後肢基節、後胸腹板、及び腹部腹板第 4~7 節外方は白色粉を貯える。腹部末端節腹板は円い。

本種は H. SAUTER が甲仙埔で採集した標本により (性別、個体数は記載ない。)記載された非常に格調高い種類で、その後の報告もなく図示されたこともないので部分図を添えておく。なお本種は三輪勇四郎、中条道夫両博士の日本産鞘翅目分類目録、吉丁虫科ではルリナカボソタマムシとなっているが、不適當と思われるので上記名に改称した。

2. タイワンナカボソタマムシ *Coraeus formosanus* MIWA et CHŪJŌ, 1935.

1 ♀, 桃園県復興郷巴陵, 13. v. 1984, 小宮義璋採集。

本種は 1975 年、筆者が奄美大島、沖縄本島、石垣島の各島産の 4 ♀ により日本より記録し、その後、藤田 宏(1976)により石垣島、竹富島より 2 ♀ 1 ♀ が記録され、その際『♂ は ♀ に比べ、体が細く、♀ の頭頂、前胸背、上翅肩部及び会合線付近の赤銅

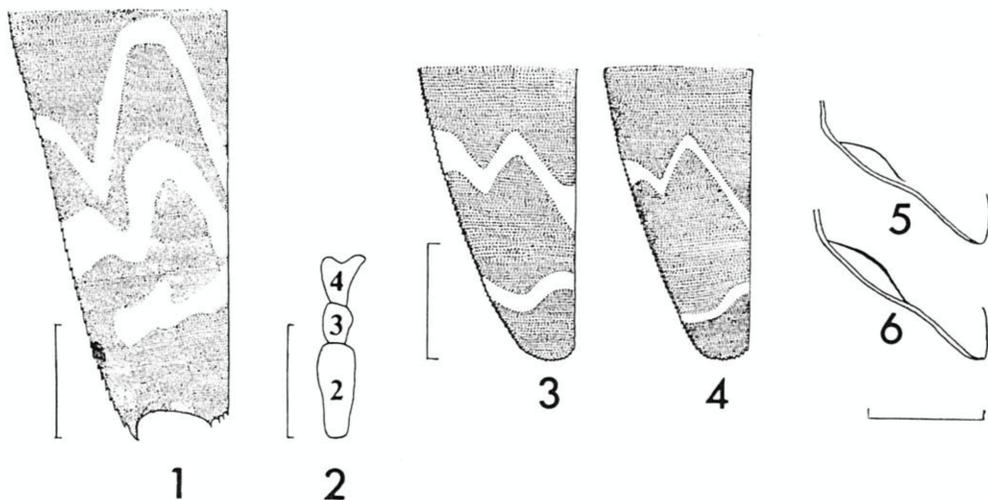


図 1—2 スミナガシナカボソタマムシ *Coraeus aesopus* KERREMANS: 1, 上翅端, スケール 1 mm; 2, 触角基部, スケール 0.5 mm.

図 3—6 タイワンナカボソタマムシ *Coraeus formosanus* MIWA et CHŪJŌ, 上翅先端と内側降線: 3, 台湾産; 4, 6, 石垣島産, スケール 1 mm.

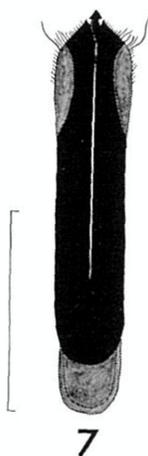


図 7 タイワンナカボソタマムシ *Coraebus formosanus* Miwa et Chūjō 石垣島産 ♂ 交尾器。

光沢は全くなく、全て青味を帯びた黒色である。また上翅中央～後半の白い波状紋は個体により多少変化するようである。』と報告されている。今回採集された♂(体長7.8mm)を沖縄県石垣島石垣市内で1978年4月8日、西川直己氏によって得られた1♂(体長7.2mm)と比較したが、台湾産は頭頂、顔面の青味がより強く、前胸背の内側隆線が弱く、又翅鞘中～後半の波状の横帯が太い等の差異が見られた。

最後に三輪、中条両博士の原記載を読み直してみると『頭部は赤銅光沢を帯び、体長10mm～12mm』

と書かれているので性別、個体数が明記されていないが、複数の♀で書かれた可能性が高い。

参考文献

秋山黄洋. 1975. 琉球列島のタマムシ. 甲虫ニュース, 29-30: 4.
 藤田 宏. 1976. 先島諸島のナカボソタマムシ属覚書. エリトラ, 4: 36-37.
 KERREMANS, Ch., 1912. H. Sauter's Formosa-Ausbeute. Buprestidae II. Arch. f. Naturg., 78, A(2): 110-116.
 MIWA, Y. & M. Chūjō, 1935. Some new Buprestids from the Japanese Empire. Ent. World. Tokyo, 3 (17): 270-282, pl. 105.
 ———, 1936. Catalogus Coleopterorum Japonicorum, Buprestidae, Taihoku, Formosa, 34 (26+4+3+add. 1) pp.
 (神奈川県横浜市)

○青森県から未記録とされるカミキリ2種について
 「日本産カミキリ大図鑑」(草間ほか, 1984)では、下記2種のカミキリは、分布図の青森県の部分が空白になっているが、筆者は青森県産の標本を所蔵しているため記録しておくことにしたい。

1. ヒソカミキリ *Microlera ptnoides* BATES

3頭, 南津軽郡浪岡町梵珠山, 24. vi. 1951, 松野武敏採集。津軽地方では5月下旬～7月下旬にカエデの花やそだなどから得られ、小型ではあるが決して少ないものではない。この他、近年になって弘前市座頭石から記録されていることを知った*。

2. チビコブカミキリ *Miccolamia verrucosa*

BATES

1頭, 弘前市一野渡(鶯の巣国有林内), 30. vii. 1960, 松野武敏採集。

青森県工業試験場のスタッフによる秋田県田代岳方面の調査に同行した際、県境を示す針葉樹の手前(したがって青森県側)数メートルのところで叩き網で得られたものである。

県内では他に採集例を聞いていないので少ないものかも知れない。

* 木戸博和 (1982) 久渡寺・座頭石のカミキリムシ(4), *Celastrina*, (10): 24~25.
 (青森県弘前市, 松野武敏)

○フタツメゴミムシ神奈川県における記録

フタツメゴミムシ *Lebidia bioculata* MORAWITZ

は、神奈川県からは従来未記録であったが、筆者らは同県産の下記の標本を検しているため報告する。3頭, 相模大山, 21. iv. 1985, 芳賀 馨採集。貴重な標本を恵与下さった芳賀 馨氏に厚くお礼申し上げます。

(東京都新宿区, 根本圭介; 神奈川県横浜市, 榎戸良裕)

◇訂正

本紙66号にオオモンキゴミムシダマシを四国新記録として発表したが、すでに宮武睦夫氏があげは8号(1960)に愛媛県別子山村笹ヶ峯から記録されていたので、訂正する。ご教示頂いた沢田和宏氏に謝意を表したい。(千葉県市川市, 山崎秀雄)

甲虫談話会

会費 (一ケ年) 3000円, 次号は4月下旬発行予定
 投稿〆切は3月31日

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話 (364) 2311, 振替東京 0-60664

印刷所 創文印刷工業株式会社

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号 (各号100本180円)

なお、有頭針00, 0号もできました。その他、採集、標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

電話 (03) 409-6401 (ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,700, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3個以下¥1,300, 4個以上¥850 (以下同様), 第2地帯¥1,500, ¥950, 第3地帯¥1,700, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥60)

タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-212-25

電話 (03)811-4547, 振替 6-113479